

奥只見 日向倉山

日程：2016年4月10日

メンバー：2名（F、M）

報告：M



越後駒ヶ岳を背後に登る

Aさんの下山報告メールを拝見するまでは、奥只見の日向倉山という名を耳にしたことすらありませんでした。ヤマケイの登山地図はもとより、分県登山ガイド「新潟県の山」、さらには新潟日報刊の「越後百山」にすら、登山ルートが紹介されていないその山は、その魅力を聞きつけ残雪期に訪れた私たちに大展望を披露してくれたのでした。

3月末の平日、Aさん達で、坂戸山でカタクリ探勝の後、奥只見で春山登山という登山届けを、春の妖精と残雪の山の両方を楽しむプランはさすが山の通人のチョイス、と思って眺めていました。数日後、その下山報告にさらっと書かれていた「日向倉山は好天に恵まれ純白の荒沢クンや越後三山を十分に堪能する事ができました」は、私の「荒沢くん」熱を呼び覚ますに十分刺激的なフレーズでした。2013年9月、越後駒から初めて見る荒沢岳の端正な姿に胸をざわめかせ、翌年10月にはシリウス山行で念願の登頂。その山行記を「ヒマラヤ襷を思わせる鋭い尾根が雪化粧する姿に出会ってみたい。しかし、積雪期には雪に閉ざされる奥只見、その姿は想像するしかないのかもしれない」と締めくくったものでした。

しかるに先のご報告によれば、春となった今なら奥只見に入れるし、ニッコウなんとかという山に登ってみれば、憧れの君が白く輝く姿を拝めるらしいのです。矢も盾もたまらず、さっそくAさんにハウツーのご教授をお願いしてみたところ、各ポイントの貴重なガイドと蒼空の下の見事なお写真とともに、日向倉は藪山なので、登れるのはせいぜい4月いっぱい、登山口では「ここからもうMさんの荒沢君が顔をみせてくれます」、日向倉山は「荒沢岳の恰好の展望台、イケメン君を隅から隅まで観察できます。是非行ってきてください。」とのお言葉を賜り、会いたくなる思いは募る一方、というかAさんにそこまで背中を押していただいて引くに引けぬ状況になってきました。

4月は公私とも多忙で、山に行けそうな週末は今週末のみ！前回の荒沢岳にご一緒し、「彼」のことを「男前の山」と好印象のFさんに、直前ながらご同行お願いしてみたところご快諾くださり、Fさんの愛車で越後路へと向かわせていただくことになりました。

シルバーラインの長いトンネルから銀山平に出るやいなや、Aさんの予告どおり眼前にそびえたつのが、我が荒沢くん。高曇りの空の下、雪を羽織って無雪期より筋肉の隆起が目立たなくなっはいるものの、やはり大きな鳥が翼を拡げたような秀麗なお姿。はるばる会いにきました荒沢くん、と再会の感慨に浸りかけていたら、大きな観光バスが駐車場に着き、次から次へと山・山スキー支度の面々がにぎやかに降りてこられるではありませんか。「知る人ぞ知る」度は、荒沢くんより遥かに勝るこの山に、まさかのツアー登山客と驚いていたら、新潟の山岳会の山行とのことで、さすがに県下には「知る人」が大勢おいでだった模様です。

その大集団と相前後しながら、河原のコンクリート建屋の脇から、藪がところどころ顔を覗かせる急斜面をストックを頼りに登り始めました。恰好の展望台というだけのことはあり、奥只見湖を挟み荒沢くんと正対するのが、日向倉山に繋がる東西の尾根です。その尾根を目指して、梢に何度も手足を絡めとられながら、息を弾ませ登っては振り返るたびに次第に大きな山容をあらわしてくる荒沢、中岳、越後駒。その姿に励まされつつ約1時間、稜線に出ると初めて北側の只見の山々が目に飛び込んできます。

つい10日ほど前のAさん達の山行写真と比べても、急速に融雪が進んでいるのは明らかで、純白の貴公子ぶりを期待していた荒沢くんには、少し俗世の垢が混じっている様子でした。

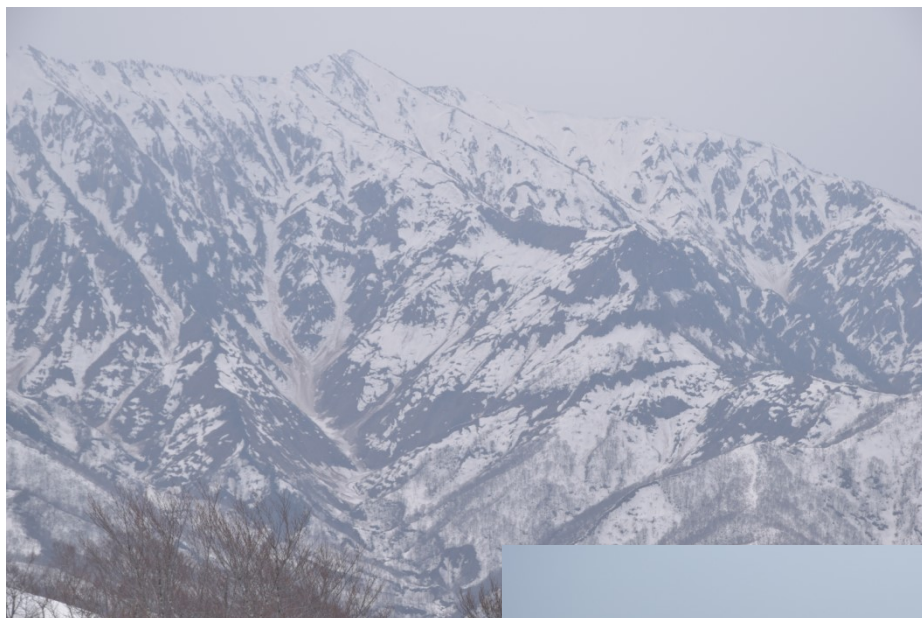


斑模様の荒沢岳

ここからは、悠々と春山稜線散歩、と行きたいところでしたが、緩んだ雪面の細かいアップダウンと、枝に全身絡めとられるような藪の通過に消耗しつつ、やっとの思いでFさんについてゆけば、2時間ほどで1430mの山頂へ。東西に長い頂上部からの360度の眺めに、Fさんからも歓声があがります。ここも山また山のただ中にあることを実感させる場所で、北には、未丈ヶ岳、浅草、守門岳などまだ足を踏み入れたことのない越後の山々、東南には奥只見湖と尾瀬の山々、南面には屏風のような荒沢、中岳、越後駒、その奥には巻機も見えていたでしょうか？頂上直下の窪地には、スキーヤーがはしゃいだ声で滑り降りていました。肌寒い山頂でしたが、ゆっくりとお昼を食べながら約1時間じっくり眺望を楽しみました。



時々、藪をかきわけ進む



荒沢くんの真っすぐに伸びる稜線のライン



山頂で記念写真 奥只見湖をバックに

下山路を歩む間ずっと見守ってくれている荒沢くんの姿をつぶさに眺めてみると、前回は気づかなかった、頂上に突き上げる稜線の鋭い美しさに目を奪われました。均整のとれた三角形を描く荒沢くんの頂嶺に重なる一本の長い直線は、雪に縁取りされて一層その潔さを際立たせているようです。これほど綺麗な線を描く尾根を見たことがあったかしらと、新発見の荒沢くんの魅力にときめきながら、登りと同じルートで2時間ほどで銀山平に下山しました。

実のところ奥只見は冬閉ざされる秘境などではなく、奥只見丸山スキー場用にシルバーラインは厳冬期も通行可能なのです。いつか越後の美丈夫を見つめながらスキーをしてみたいと思います。もっとも彼の住まいは日本有数の豪雪地帯、会いたいときに姿を見せてくれない君なのかもしれませんが。



(参考)10日前にAさん達の見た荒沢くんの線(撮影Tさん)

<コースタイム>

8:40 駐車場出発 → 9:45 尾根に出る → 11:30 山頂着 → 12:30 山頂発 →
14:30 駐車場着